

北陸石仏の会々報

阿・阿の狛犬

文山 純子

一般に狛犬や仁王像等は、「阿・吽」で対になっています。阿は口を開いている、吽は口を閉じている姿です。これは万物の始めと終わりを表していると言われていきます。 明解国語辞典 金田一京介監修

先日、富山市山王町の「日枝神社」で他所で見かけない「阿・阿」の狛犬を見ました。神社の葉に「大陸伝来のものと伝えられ、双方、口を開けているのは珍しい」書いてありました。少し古い葉には「韓国伝来のものと伝えられ、口の中で玉をころがしているのは珍しい」と書いてありました。日枝神社には空襲のためか古い書類が残っていない、詳しいことはわからないそうです。私は新しい発見と思いい「大山の歴史と民俗第19号」に発表しました。

その後『北陸石仏の会々報第49号』が届きました。尾田武雄さんの「砺波型狛犬」の報告が載っていました。その中に「石工井波森野善四郎」の紹介がありました。「森野善四郎作の狛犬は、ずんぐりと堂々としっかりと足を地についたスタイルで首を屈め、左右とも阿形で口を開けているのが特徴である。富山市婦中町鵜坂の鵜坂神社境内にもこの狛犬がある。あまり類例なく特徴的であるので、砺波型としたい」と書いてありました。これを読んでさっそく鵜坂神社を見に来ました。やはり「阿・阿」の狛犬でした。又、新しい発見でした。教えていただきましてありがとうございます。

富山市山王町
日枝神社の狛犬



富山市婦中町鵜坂
鵜坂神社の狛犬

第50号

平成28年8月1日発行

編集と発行

北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 平井一雄

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

- ・阿・阿の狛犬
- ・殿城庵の石仏など
- ・砺波地方の珍しい石仏たち
- ・日中の肩掛地藏
- ・第52回例会報告
- ・事務局広報
- ・第53回例会案内

殿城庵の石仏など

滝本 やすし

はじめに

福井県南越前町新道の山中に殿城庵と称される場所がある。畳四畳ほどの建物が建てられており、仏像などが納められている。この山は個人の所有で、先代が建物を建て点在していた石仏などを納めたそうである。建物の周囲には五輪塔や板碑が数多くみられ、この場所には殿城庵という仏堂があったようである。

管理所有者に同行をお願いし、ほとんど道とは呼べないような山道を十分ほど登った。建物が見えてくるとその手前に石を組んだ龕が作られており、その中に女性の石像が納められている。この場所から先は女人禁制となっている。建物内には、左から順に次の尊像が並べられていた。

十王、奪衣婆、懸衣翁(以上木造十二軀)。慈恵大師、六地藏、青面金剛と二童子、阿修羅王、地藏、釈迦涅槃図、地藏、地藏、薬師如来と十二神将、角大師と西国三十三ヶ所観音、牛乗り大日、弘法大師、僧形像(以上石造十三軀)。これらのほとんどが江戸時代中期の作と思われる。

建物内にはこれらの他に、細かな文字が数多く刻まれた石板三基、木製の経櫃、石造の経櫃、卒塔婆二枚が床上に置かれている。

十王、奪衣婆、懸衣翁

十二軀の木像は、建物左壁の棚の上に並べられている。十王はほとんど同じ像容で、尊名の判別が困難である。他よりも大きい一体が閻魔王であろう。奪衣婆は十王よりも小さく、懸衣翁はさらに小さい。

慈恵大師良源(元三大師)

凝灰岩製の丸彫り座像で、右手を膝の上に置き、左手に数珠を持つ。目に

特徴があり、天台宗寺院にみられる木造のものと良く似ている。彩色されているが、かなり色あせている。石造の慈恵大師は極めて作例が少ない。

六地藏

横長の凝灰岩に、六体の地藏が横一列に浮彫りされている。それぞれ蓮座上に立ち、持物は向かって左から、鉢、蓮華、数珠、柄香炉、合掌、錫杖と宝珠である。それぞれの像の右に「宝説」「妙典」「妙心」「道喜」「利」「心」と刻まれている。

青面金剛と二童子

縦長の凝灰岩に、青面金剛、二童子、二鶏、二猿が浮彫りされている。青面金剛は一面六臂の憤怒形立像で、岩上の邪鬼を踏みつけている。上辺の二手は矛と輪宝を、中央の二手は剣と人身(?)を、下辺の二手は矢と弓を持っている。

裏面に「奉造立辰申尊躰／志趣者鎮護村中／衆民為除災■所／安置者也未代地／■政不可致■也／皆元禄二巳天／二月十二日／願主 真福寺中興／聲蓮社尋誉代」の銘が刻まれている。尋誉上人は浄土宗真福寺第八代である。

阿修羅王

縦長の凝灰岩に、三面六臂の憤怒形の阿修羅王立像が浮彫りされている。上辺の二手に日月を、中央の二手は胸前で組み、下辺の二手は蓮華と宝珠を持っている。石造の阿修羅王は作例が少ない。後述の釈迦涅槃図の中にも、釈迦の後方に阿修羅王が彫られている。

地藏①

凝灰岩製の丸彫りで、蓮座上に立っている。右手に錫杖を、左手に宝珠を持っている。

釈迦涅槃図

横長の大きな板状の凝灰岩に、釈迦涅槃図が浮彫りされている。下方の動物たちのみ線彫りである。江戸時代中期の石造涅槃図は他に作例がなく貴重である。江戸時代後期に作られたと思われる福井市西木田の泰清院の石造涅槃図と比較して、次の点が大きく異なっている。

(一)、仏像もみられるが、神像が多く彫られている。これは神仏習合の信仰によるものと思われる。(二)、上部に日月が彫られている。これは寺社曼荼羅(特に那智山をはじめとする西国三十三ヶ所の参詣曼荼羅)に習ったものである。(三)、雲に乗って駆け付けた麻耶夫人や阿那律尊者などが彫られていない。(四)、釈迦の周りに沙羅双樹が彫られていない。麻耶夫人や沙羅双樹などが彫られていないのは、スペースの都合で単に省略しただけなのであろうか。

地藏②

凝灰岩製の丸彫りで、蓮座上に立っている。両手は胸前で合掌している。胸部に「接譽上人」、台座に「真福寺代九世」と刻まれている。

地藏③

凝灰岩製の丸彫りで、蓮座上に立っている。右手に錫杖を、左手に宝珠を持っている。

薬師如来と十二神将

縦長の凝灰岩に、薬師如来座像とその眷属である十二神将立像が浮彫りされている。最上部中央に薬師如来が、その下に十二神将が二段にわけて六体ずつ彫られている。十二神将は像容などからそれぞれの尊名を判断するのは困難であるが、後述の西国三十三ヶ所観音と同じ順番に並んでいると考えられる。

裏面に「奉造立薬師十二神／志趣者鎮護村中／衆民為除災■所／安置者也
未代地／■政不可致■也／皆元禄二巳天／二月十二日／願主 真福寺中興／

聲蓮社尋代」の銘が刻まれている。これは青面金剛の裏面と同じ銘文である。

角大師と西国三十三ヶ所観音

横長の凝灰岩に、角大師(元三大師)を中央下部に配して西国三十三ヶ所観音が二段に並んで浮彫りされている。西国三十三ヶ所観音は、上段右から順に第一番から第十七番まで、下段左から順に第十八番から第三十三番まで並んでいる。正面右端に「江洲三河村大姉」と刻まれている。江洲三河村は、元三大師の生誕地である滋賀県長浜市(旧浅井郡虎姫町)三川町である。大姉とだけしか刻まれていないので、残念ながら願主を特定できない。

石造の角大師は作例が少なく、東京深大寺、千葉仏法寺、群馬真光寺、群馬水澤寺などのものが知られる。また白山の越前禅定道にあった丸彫り像は盗難に遭い所在不明となっている。

牛乗り大日

凝灰岩製の丸彫りで、金剛界大日如来が牛の上に座っている。石造の牛乗り大日は作例が少ない。

弘法大師

凝灰岩製の丸彫りで、履物を脱いで、独鈷と数珠を持って座っている。

僧形像

凝灰岩製の丸彫りで、合掌して座っている。この僧形像は慈恵大師あるいは弘法大師のように思われるが、これについては、後述の女性像の項で考察する。

石板三基

釈迦涅槃像の前の床上に、多くの文字が刻まれた凝灰岩の大きな石板三基

が並べられている。左右の石板は損壊が激しく判読困難であるが、中央の石板は保存状態良好でありほぼ判読できる。これには享保十七年、真福寺の接誉による造立の銘がみられる。この石板の碑文より、この場所が真福寺歴代の墓所であったことがうかがえる。

経櫃二基

建物内左の床上に木製の経櫃が、右の床上には凝灰岩製の経櫃が置かれている。これらの中には、小さな経巻が合わせて千巻納められている。しかし長い年月のためボロボロになっており、判読できるものはなさそうである。

木製の経櫃は、正面中央に「南無釈迦牟尼佛」、その右に「元三大師」、左に「弘法大師」の墨書きがある。

石造の経櫃は上部が宝珠形に加工された蓋のついた六角形で、銘などは刻まれていない。

卒塔婆二枚

建物内の右に、二枚の木製卒塔婆が立てかけられている。書かれていた文字は判読できなくなっている。

女性像

建物の手前十数メートルの場所に石を組んだ龕が作られており、その中に一体の凝灰岩製の女性像が納められている。合掌する丸彫りの座像である。台座部分に破損がみられるが、保存状態は比較的良好である。これから先は女人禁制となっており、女性は建物のほうへ向かうことはできない。

この女性像は、建物内右端に置かれている僧形像の母親であると伝えられている。また女性像の手前に、ねじれ曲がったような形の石(砂岩製の川石)が置かれている。この石は、息子に会うことができない母が悔しさのためねじ曲げたものと伝えられている。

建物内の僧形像とその母とされる女性像は、良源(慈恵大師)と母の月子で

あろうか、それとも空海(弘法大師)と母の玉依御前なのであろうか。それぞれの伝説をもとに考察してみたい。

「慈恵大師良源(元三大師、角大師)と母・月子」 良源は、延喜十二年(九一二)九月三日に近江國浅井郡虎姫宇三川の豪族である木津家で生まれた。十二歳頃に比叡山に入り、康保三年(九六六)に天台座主となった。朝廷から贈られた諡号は慈恵。永観三年(九八五)一月三日に入寂されたことから、元三大師の通称で呼ばれる。全国の寺社にみられるおみくじの創始者として知られる。天台系寺院で配布される角大師の護符は、良源が疫病神を退治した時の姿とされる。比叡山で修行を行っていた良源は、遠く離れた三川村に住む母を、比叡山の麓の千野に迎え住まわした。比叡山は女人禁制であったため、山に向い入れることはできなかった。良源は麓に住む母のもとへ毎晩のように通い続けたといわれる。良源が天台座主となった翌月に、母・月子は亡くなった。千野の月子住居跡はその後、天台宗安養院として月子が祀られている。

「空海(弘法大師)と母・玉依御前」 空海は、宝亀五年(七七四)に讃岐國多度郡屏風浦で郡司である父・佐伯直田公と母・阿刀家玉依御前の子として生まれた。幼名は真魚。延暦十二年(七九三)頃から山林での修行に入った。唐で密教を学び、帰国十年後の弘仁七年(八一六)に高野山を開いた。高齡となった弘法大師の母はわが子に会いたくて讃岐の国をあとにし、高野山へと向かった。しかし宗祖の母といえども女人禁制の高野山には入れず、麓の慈尊院に住んだ。弘法大師は月に九度、麓に住む母のもとへ通い続けたといわれる。

いずれも良く似た伝説であり、それだけでは殿城庵の母子像がどちらであるのか判断できない。しかし殿城庵の僧形像は若い修行僧のようであり、修行時代に母が近くに住むことになった良源ではないかと考えられる。

おわりに

殿城庵に残されている石仏などは年代が異なる複数名による造立であるが、真福寺による造立のもの以外には銘が刻まれておらず、造立の経緯などを推測できない。更なる考察が今後の課題である。



阿修羅王



青面金剛と二童子



木造の十王、奪衣婆、懸衣翁



地蔵②



地蔵①



慈恵大師良源



六地藏



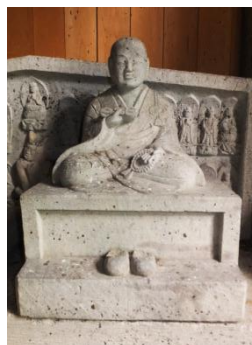
薬師如来と十二神将



地蔵③



釈迦涅槃図



弘法大師



牛乗り大日



女性像(月子?)



僧形像(良源?)



角大師と西国三十三ヶ所観音

砺波地方の珍しい石仏たち

尾田 武雄

砺波は真宗王国で、石仏は少なく単調であると思われていた。しかし丹念に調査してみると、実に多様な石仏たちがおられる。南砺市井口には風天、水天、また同市井波には無量力吼、砺波市では恵比壽、阿耨達童子、稻荷大明神、弁財天、飯綱権現、風神などがある。これら石仏は、いわゆる真宗の教団仏教とはかわりのないものであり、この地に根差した民間信仰の所産なのである。このような信仰を根付かせた宗教者は誰なんだろうかと興味をそそられる。

宗教行事や葬儀には既成の教団宗教者が関与されるが、真宗の教えの範疇に無いこれら石仏の祭祀は、現在途切れている場合が多い。この江戸時代末ごろには、真宗教団も庶民に深く根を張っていた。しかし地下水のように脈々と信仰されてきたのが石動山信仰を伝えた定着修験、つまり石動山修験の山伏が砺波の地に布教し定着して、現生利益の信仰を落としていったのであろうと思われる。

全国的には聖徳太子南無二歳像は、この地方だけに限ったものかもしれない。この太子像は現在二百四十体前後確認している。



飯綱権現（砺波市本町）



水天（南砺市井口）



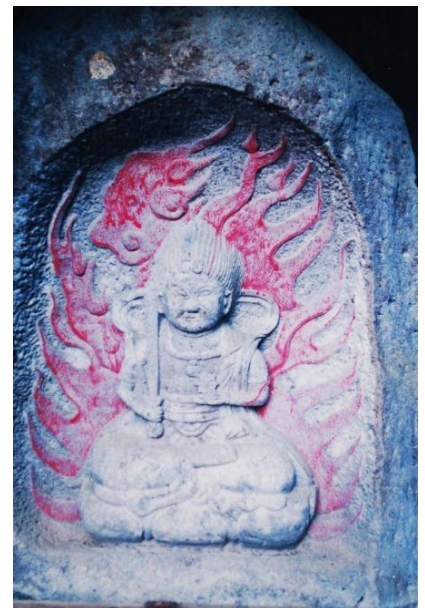
風天（南砺市井口）



風神（砺波市庄川町）



恵比壽（砺波市苗加）



無量力吼（南砺市井波）

日中の肩掛地蔵

平井 一雄

北陸石仏の会第52回例会は「立山町の石仏めぐり」を計画した。会員15名 会員外3名の参加で予定コースを滝本やすし・平井一雄の案内でほぼ回り切ることができ満足できる成果を上げることができたと自負している。コースの目玉の一つ、日中の「肩掛地蔵」はなぜか肩に掛けられているはずの横石が外されて後ろに無造作に立てかけられていた。そのときはあまり気にならなかったがこれは文化財の現状変更にならないのかとあとから気づいた。

三月十五日に滝本さんと事前調査に行つたときはまさに肩掛地蔵の状態だった。写真を添付する。

手元の『立山町史上巻』美術・工芸 石造美術（京田良志執筆）に「日中肩掛地蔵」の項目があつたので翻刻して紹介する。

・日中の肩掛地蔵（翻刻 平井一雄）

五輪塔でも宝篋印塔でもないが、日中の肩掛地蔵は南北朝時代の石龕（せきがん）①仏の珍しい遺品である。現在は石龕としての形が解体して、左右の側壁が並べられて、かつて楣（まぐさ）②のかかつていた（しゃくり）③に石龕の部分石が渡されている。肩掛地蔵の名はこのような現状からつけられたものである。

肝心の奥壁がないが、肩掛になつている石材以外にもいく石があつて、ある程度復元が可能である。間口は不明、奥行き三十センチメートル、高さ四十センチメートルの切妻平入りの石龕であつた。おそらく奥壁にも仏像があつて、左右側壁の各一尊とともに三尊をなしていたものであろう。

左右側壁の像容は現在地蔵といわれているが、実は蓮台上的の観音像である。蓮台が大きくてそのなかに膝が没するような半肉彫は、すでにとりあげた十四五世紀の川石による一石一尊仏に見られた。本遺品もまた十四五世紀から十五世紀初頭を降らぬころの作と考える。

注①石龕 石で作られた仏像を納める厨子
②楣 戸や出入口などの上に横たえた梁
③しゃくり しゃくつてあるところ



2016. 5. 15 日中 肩掛地蔵正面



2016. 5. 15 日中 肩掛地蔵裏面



2016. 3. 15 日中 肩掛地蔵正面



2016. 3. 15 日中 肩掛地蔵裏面

第52回例会「立山町の石仏めぐり」報告

松井 兵英

富山県立山町は自宅から近く、尾田武雄氏著『とやまの石仏たち』や、立山町教育委員会発行の『立山道石造物マップ』などを頼りに歩いていきましたので、親しい場所のつもりでした。「霊峰立山」の裾野なので、立山信仰に関する石仏が主とも思っていました。岩嶺寺からは立山散策ガイドで有名な佐藤武彦氏や立山博物館の加藤基樹氏なども見えられて歩き初めます。初めて聞く地名、見たことのない尊名が次々に紹介されます。多くの場所を巡ることができ、帰ってから写真を見ても前後を思い出せない始末、全部は語れませんので、印象に残ったものをいくつか書きます。

秘鍵大師像 岩嶺寺路傍小堂と宮路仏事会館横

剣を持った弘法大師像、嵯峨天皇に般若心経の奥義を講義した時のお姿で、剣は文殊菩薩の智慧をあらわすそうです。以前、岩嶺寺周辺には文殊菩薩や不動明王など剣を持った像が多いとの尾田氏の報告文もありました。劔岳との関係か、あるいは慈興上人（立山開山伝説の佐伯有頼）の師、文殊菩薩の化身である慈朝仙人に因むのでしょうか。立山信仰は天台系と言われますが、立山参詣路には弘法大師の伝承や像が多いのも気にかかります。

五劫思惟阿弥陀（＝法蔵菩薩＝やせほとけ） 米道路傍小堂

尾田氏の研究で有名です。このあたりだけで二十数体確認されているようで、時代は新しく明治末～昭和後期まで、浄土真宗の『正信偈』だけに登場する尊名であり、普及した背景がよくわからないとのことです。九州へ行った売薬や薩摩の隠れ念仏との関係を説く人、警女の佐藤千代（1884～1946）が信仰して弘め、その足跡に造立されたという説と、アメリカ移民文学者・ジャーナリストで、のち郷土史や仏教を研究した立山町六郎谷出身の翁久允（1888～1973）が弘めたという説を会代表の平井一雄氏が紹介されました。一定の地域の民俗信仰であり、近代の事なので背景の解明が期待されます。

誕生釈迦像 小林路傍小堂

「天上天下唯我独尊」の像で、お寺では「花祭り」のときに小像を見ますが路上の石仏を見るのは初めてです。光背に「立山道」の道標もあります。

金剛童子 金剛新く淵上、小堂内と路肩

聞き慣れない尊名で、阿弥陀仏の化身とも、熊野詣の人を守護する神とも言われます。役の行者が感得したという独自の尊名「金剛蔵王権現」の原型だそうです。立山には役の行者の伝承がないようですが（獅子ヶ鼻岩に像がある）、修験道にかかわるものか、「金剛新」の地名とも関連して近くにあって有力なお寺が弘めたものか、不思議な像です。

その他の石仏

他ではあまり見られない准胝観音・普賢菩薩・文殊菩薩が多いのが印象的でした。また、善光寺式阿弥陀三尊像も県内で初めて見たものです。

感想など

会に加えて頂き十年以上ですが初めは尊名を覚えるのがやっとでした。いつも見学会で感じるのとは昔の人々の信仰心と地元の人たちの石仏への愛情、そして滝本やすし氏を始め先輩諸氏の造詣の深さと研究への熱意です。私も老人と呼ばれる歳になりゴーギャンの画題のように「我々は何処から来たのか、何者か、何処へ行くのか？」に自分なりの答えを出す必要を感じます。なかなか追いつけません。今後とも先輩方のご指導を仰いでいきたいと思います。



宮路仏事会館にて記念撮影

北陸石仏の会 平成27年度決算

収入の部

項目	予算	決算	備考
前期繰越金	215,046	71,581	前年度繰越金
会費	105,000	110,000	29人×3000円
雑収入	24	22	貯金利子
合計	320,070	181,603	

支出の部

項目	予算	決算	備考
事務費	10,000	0	
会報費	20,000	71,690	会報(送料込み)
郵送費	10,000	0	
会誌費	220,500	0	
予備費	59,570	0	
合計	320,070	71,690	

181,603 - 71,690 = 109,913

次年度繰越金 109,913円

平成28年度予算案

収入の部

項目	前年度決算	今年度予算	備考
前期繰越金	71,581	109,913	
会費	110,000	90,000	
雑収入	22	17	貯金利子
合計	181,603	199,930	

支出の部

項目	前年度決算	今年度予算	備考
事務費	0	0	封筒など
会報費	71,690	30,000	会報
郵送費	0	0	切手代
会誌費	0	41,690	『北陸石仏の会研究紀要』
予備費	0	0	
合計	71,690	71,690	

平成28年度事業計画 5月第52回例会富山県立山町 9月第53回例会福井県坂井市 会報2回発行

役員構成

会長 平井一雄(富山県) 副会長 滝本やすし(石川県) 事務局 尾田武雄(富山県)

理事 酒井靖春(富山県) 理事 池田紀子(石川県) 監事 松井兵英(富山県)

北陸石仏の会 第53回例会

—春江町と坂井町の石仏めぐり—

平成28年9月25日(日)

参加費：5000円（バス・資料代）

集合場所：①大沢野文化会館……………6時20分

②JR砺波駅南口……………7時00分

③高速道徳光上りPA…7時50分

④JR春江駅……………8時40分

申込方法：次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先：〒939-1315 砺波市太田1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り：平成27年9月16日(金)

案内：滝本やすし(石川県金沢市)

見学予定 福井県坂井市春江町および坂井市坂井町

◎春江町寄安 黄楊の堂／親鸞、山王神社石祠[山王権現(大山咋神と大物主神)]

◎春江町寄安 住吉神社／旧本殿石祠[観音と毘沙門天]

◎春江町正蓮花 諏訪神社／旧本殿石祠[諏訪大明神(建御名方神)]

◎春江町高江 住吉神社／胎蔵界大日種子板碑、石祠

◎春江町千歩寺 八幡神社／山王神社石祠[山王権現(大山咋神)]

◎春江町西長田 長田神社／春日神社石祠[文殊三尊]、貴船神社石幢[高麗神と闇麗神]、双体神像、板碑

◎春江町西長田 薬師堂／薬師如来、地藏、「八幡大菩薩」、廻國塔

◎春江町井向 白山神社／本殿石祠[白山三所権現]、阿弥陀三尊種子板碑

◎坂井町徳分田 日吉神社／秋葉神社石祠[観音]、菅原神社石祠[菅原道真]

◎坂井町上兵庫 八幡宮／本殿石祠[武将形八幡神(応神天皇)]、秋葉宮石祠[秋葉権現]、如意輪観音、地藏

◎坂井町上兵庫 松原神社／阿弥陀如来、十一面観音、弁財天(市杵島姫命)

◎坂井町清永 白山神社／八幡神社石祠[武将形八幡神(応神天皇)]、神明神社石祠[雨宝童子]、九重塔

◎坂井町東荒井 春日神社／旧本殿石祠[薬師如来]、弁財天社石祠[弁財天]

◎坂井町上関 八幡神社／神明神社石祠[六字明王]

◎坂井町下関 春日神社／春日神社石祠[観音]、神明神社石祠[雨宝童子]、不動明王

◎坂井町高柳 氷川神社／氷川大明神(素戔鳴命)

[諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。]



山王権現

諏訪大明神

武将形八幡神

雨宝童子

六字明王

氷川大明神

平成28年度の会費を未納の方は、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。